

## 第7回奈良のシカ保護管理計画検討委員会

日時 平成30年3月22日(木) 14:00 ~ 16:30  
場所 奈良春日野国際フォーラム 薨~I・RA・KA~会議室1

### 議 事 要 旨

#### 1. 開会

#### 2. 議事

##### 【報告事項】

- (1) 平成29年度のワーキンググループの開催状況について
- (2) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画に基づく平成29年度モニタリング報告について

##### 【審議事項】

- (1) 平成30年度以降のワーキンググループの再編成等について
- (2) 委員会の今後のスケジュールについて
- (3) 防鹿柵の設置方針について
- (4) 交通事故減少に向けた取組みについて
- (5) 天然記念物「奈良のシカ」保護計画について

#### 4. 閉会

##### 【配布資料】

- ・資料 1-1 委員会、ワーキンググループの平成29年度開催状況
- ・資料 1-2 ワーキンググループの再編成等について
- ・資料 1-3 天然記念物「奈良のシカ」保護管理計画に係るスケジュール
- ・資料 2-1 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画 平成29年度実施報告及び平成30年度実施方針(案)について
- ・資料 2-2 防鹿柵の設置方針について
- ・資料 3 交通事故減少に向けた取組みの検討結果
- ・資料 4 天然記念物「奈良のシカ」保護計画の策定方針
- ・参考資料 1 A地区におけるシカの行動圏について
- ・参考資料 2 第6回奈良のシカ保護計画検討委員会 議事概要

● 出席者名簿

	氏 名	役 職 名	
委員長	村上 興正	元京都大学理学研究科 講師	
委 員  (五十音順)	朝廣 佳子	鹿サポーターズクラブ 会長	
	高柳 敦	京都大学 講師	
	立澤 史郎	北海道大学大学院 助教	
	玉手 英利	山形大学 教授	欠席
	鳥居 春己	奈良教育大学 特任教授	
	松井 淳	奈良教育大学 教授	
	吉岡 豊	一般財団法人奈良の鹿愛護会 事務局長	
	渡邊 伸一	奈良教育大学 教授	
オブザーバー	江戸 謙顕	文化庁文化財部記念物課 文化財調査官	欠席
	當島 一平	春日大社管理部管理課 課長補佐	
県関係課	奈良県教育委員会事務局文化財保存課		
	奈良県農林部農業水産振興課		
	奈良県農林部森林整備課		
	奈良公園事務所		
市関係課	奈良市観光経済部農林課		
	奈良市教育委員会事務局教育総務部文化財課		
関係団体	奈良公園のシカ相談室		
	鹿害阻止農家組合		
事務局	奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局奈良公園室		
	奈良市観光経済部観光振興課		

- 議事要旨

### 【報告事項】

#### (1) 平成 29 年度のワーキンググループの開催状況について

平成 29 年度のワーキンググループの開催状況について、事務局より資料 1-1、1-3 を用いて報告を行った。

#### 【主な意見・質問】

- ・特になし

#### (2) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画に基づく平成 29 年度モニタリング報告について

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画に基づく平成 29 年度モニタリング報告について、事務局より資料 2-1 を用いて報告を行った。

#### 【資料修正事項】

- ・ CPUE の解説を加える。
- ・ CPUE の比較データとして、奈良県内のデータを使用する。
- ・ アンケート調査の方法を記載する。

#### 【主な意見・質問】

##### ➤ CPUE について

- ・ CPUE の項目について、CPUE は密度指標として用いることから、「捕獲効率 (CPUE)」を「密度指標 (CPUE)」とする方がよい。また、CPUE の説明を加えること。(村上)
- ・ 捕獲が進めば生息密度も下がり、CPUE も下がる。「捕獲効率」という表現では、捕獲の方法が良くないという誤解にもつながるおそれがある。(村上)

##### ➤ 農業被害アンケート調査について

- ・ アンケート対象は全員農家か。(渡邊)
  - 家庭菜園もあるので、必ずしも農家だけではない。(事務局)
  - アンケートを配布した対象が農家でない可能性があることや、農家の中でも耕作規模が異なる可能性があるため、対象者の職業を示す必要がある。(渡邊、松井)
  - 作付面積も聞いたほうが良い。(鳥居)
  - 今年度のアンケートでは、職業についての質問項目を設けていなかったため、来年度以降は加えるようにする。(事務局)
- ・ アンケート結果の妥当性を評価するため、実施時期等のアンケート方法を詳しく記載する必要がある。(高柳)
  - アンケート調査票を添付すること。
- ・ 今年度のアンケート調査では、幅広く質問したため、調査の焦点が不明確なものとなった。このため、来年度はアンケートの質問の焦点を絞る必要がある。(村上)

## 【審議事項】

### (1) 平成 30 年度以降のワーキンググループの再編成等について

平成 30 年度以降のワーキンググループの再編成等について、事務局より資料 1-2、1-3 を用いて説明した。

## 【決定事項】

- ・平成 30 年度以降のワーキンググループの再編成について、承認された。

## 【資料修正事項】

- ・資料 1-2 の表 1 において、保護計画WGの検討課題に生態系被害の項目を加える。
- ・資料 1-2 と 1-3 の各表現を整合させる。

## 【主な意見・質問】

- ・「特定計画WG」は「管理計画WG」のほうが分かりやすい。(村上)
- ・「奈良公園に関連する委員会と連携を図る」とあるが、連携の具体的な内容はあるのか。(立澤)  
→関連する委員会と連携するためのワーキンググループを検討している。各委員会から 2 名程度選任していただいて、具体的な連携の形を議論していただきたいと考えている。(事務局)  
→特に春日山原始林(B地区)における保護計画を今後しっかり検討する必要がある。(村上)
- ・表 1 の「検討課題」について、生態系被害は春日山原始林(B地区)における課題であるため、保護計画WGの検討課題ではないか。(高柳)  
→生態系被害はC地区、D地区でも起きている。(鳥居)  
→保護計画WGの検討課題に生態系被害についての項目を加えること。(村上)
- ・特定計画に示しているシカのデータは保護地区のシカのデータが多く、C地区とD地区のシカのデータは少ない。今後C地区、D地区におけるシカのデータを充実させる必要がある。(鳥居)
- ・資料 1-2 と 1-3 の表現の不整合がある。例えば、資料 1-3 の特定計画の欄では、「実施計画の策定」とあるが、資料 1-2 では「実施計画の策定と評価」となっている。この場合は資料 1-2 の表現に統一すべきである。(高柳)

### (2) 委員会の今後のスケジュールについて

委員会の今後のスケジュールについては、審議事項(1)において審議された。

## 【決定事項】

- ・今後のスケジュール案について、承認された。

### (3) 防鹿柵の設置方針について

防鹿柵の設置方針について、事務局より資料 2-2 を用いて説明した。

#### 【決定事項】

- ・防鹿柵の設置方針について、承認された。

#### 【資料修正事項】

- ・表 1 に狭川地区、柳生地区を加える。
- ・今年度のアンケート調査結果から、対象外となってしまった地区については、奈良市との連携や捕獲により対応する旨を記載する。
- ・基準 3 においても表を示す。

#### 【主な意見・質問】

- ・防鹿柵は設置した後の維持管理が重要であるため、「地域全体で防鹿柵の維持管理等ができる」ことを基準として加えた。また、アンケート結果によって毎年対象地区が変わるので、毎年検討しなおす形としたい。(村上)
- ・アンケート調査の回答率が低い。この基準案にもとづく対象地区を毎年更新する形とすることで、被害防除の意識を高めていきたい。(村上)
- ・奈良市内における防鹿柵は、10 年以上にわたって奈良市の補助により設置されている。この取り組みとの連携が重要ではないか。(渡邊)
  - 奈良市の補助による防鹿柵は、地域全体を守るために非閉鎖型となっている。しかし、非閉鎖型ではシカが回りこんで農地へ侵入してしまうなどの課題があるため、奈良県が設置する柵は、被害にもとづいて守るべき地域を決め、閉鎖型の構造としている。防除手法の評価についてというより、今後どうするかを奈良市と奈良県間で連携を取っていただきたい。(村上)
  - ワーキンググループで防鹿柵について議論する際には、奈良市の方にも来て頂きたい。(鳥居)
- ・表 1 に狭川地区、柳生地区が入っていないことは問題である。検討対象となる全ての地区を記載すべきである。(高柳)
- ・防鹿柵設置の優先度が低く、対象外となってしまった地区に対しては、切り捨てられているのではなく今後奈良市との連携があるといった配慮が分かるような内容としてほしい。(高柳)
  - 対象外となった地区では捕獲の強化により対応するといったこともある。(村上)
  - そういったことも書き込んでもらえるといい。(高柳)
- ・基準 1、2 では表を示しているが、基準 3 でも示すべきである。(高柳)
  - 修正意見を入れた形で、ホームページ上で公開する。(村上)

#### (4) 交通事故減少に向けた取組みについて

交通事故減少に向けた取組みについて、事務局より資料3を用いて説明した。

##### 【決定事項】

- ・本資料で扱うデータの定義を示す。
- ・各データの対象区間を、整理して示す。
- ・昭和52年時点の制限速度30km/hが、40km/hとなった経緯について調べる。
- ・モニタリング内容に、道路の混雑状況を加える。
- ・交通事故対策として、速度制限が困難であるため、シカの横断箇所を誘導するための柵を設置する実証実験を実施する旨を示す。

##### 【主な意見・質問】

- ・本資料中の「交通事故」がどのようなものか、具体的に分かるようデータの定義を示すべきである。(松井)
  - 本データは保護地区における愛護会の出動件数を示したものである。(事務局)
- ・愛護会が把握しているのに「性不明」はありえるのか。(鳥居)
  - (事務局)愛護会が出動し、現場に到着した時点でその場でいなくなってしまった個体もいるためである。
- ・データの対象区間がわかりにくい。(事務局 中西)
  - 図3、4の関連性もわかりにくい。(村上)
- ・本資料のデータは愛護会が通報を受けて出動した件数である。実際には交通事故はこの数値よりも多く起きていることは強調すべきではないか。
- ・データの解釈が重要である。交通事故の原因は、車の数か、突発的なシカの行動か、シカの自然の移動かと考えている。交通量は1日の中で変化がないのであれば、シカの移動量が交通事故件数に関係しているのではないか。特に明け方や夕方の交通事故はシカの移動量が関係しているように思う。(立澤)
  - シカの移動量が効いているように思う。ただし、交通事故低減対策には車両運転者の運転配慮は必要である。(事務局)
  - シカの行動は季節変化する。このため、データ分析の一つの方法として、シカの行動に着目し、日の出からの経過時間によって整理すると新たなことが分かる可能性がある。(鳥居)
  - この点は今後の課題とする。(村上)
- ・実証実験で柵を立てても、参道は人の往来があるので閉めることはできない。また、シカの流れは止められないので柵の外側に越流する可能性がある。素朴な疑問として、速度制限はしないのか。(松井)
  - 対象区間は幹線道路となっていることや、地域住民からの意見により速度制限は難しい。(事務局)
  - フェンスの設置はお金がかかる。スピードを押さえたら問題ない。対象区間の制限速度は、昭和52年時点で30km/hであった。これが40km/hとなった経緯を確認してほしい。(吉岡)
  - 県道の付け替えの前の速度である。付け替えの結果、対象区間は公園道となった。(事務局)

- 次回までに経緯について調べることを。(村上)
- 速度制限等、車への対策が困難であるため、シカの移動を誘導する柵を検討するといったことを示してほしい。(立澤)
- ・検証については、シカの移動経路の誘導実験という位置付けで実施する必要がある。シカを誘導できていたらよい。このときに、何が影響してシカが誘導できたかを検証しないとイケない。(立澤)
  - 同じシカが同じ場所を渡ることになるため、評価項目に道路の混雑状況を加えるべきである。(鳥居)
  - 効果検証手法については今後考える。合意形成しながら、整理をしていく。方向性については認めるが今後議論、協議が必要。(村上)
- ・資料のタイトルに「保護地区における」と加えるべき。(高柳)
- ・給餌場所の管理をどこまで実施するかが重要である。(朝廣)

#### (5) 天然記念物「奈良のシカ」保護計画について

天然記念物「奈良のシカ」保護計画について、事務局より資料4を用いて説明した。

##### 【決定事項】

- ・保護計画の構成について、概ね承認された。
- ・指摘された意見を踏まえ、「1. 計画策定の背景と目的」を修正するとともに、具体的な計画を来年度作成する。
- ・来年度、保護計画の概要版を作成する。

##### 【主な意見・質問】

- ・文章が硬くて難しい。中西理事が話す内容には想いなどが感じられる。それが伝わるような形がほしい。書き方の一つの案として、「今のシカが100年後にはどうなっているか」という視点もある。過去からの重要性を順番に示す書き方ではアピール弱いのではないか。(松井)
  - 文化遺産としては歴史のことは重要である。DNAや馴致されているなどの特徴が出ている。この歴史性が必要。天然記念物に指定された当時のことを念頭に入れる必要がある。(村上)
  - ホームページで公開するなら、シカが語りかけるような文章があってもよいと思う。(事務局)
  - リーフレットを出す場合も、シカ目線で語りかける形が良い。(立澤)
- ・歴史的なことの整理が必要。歴史があるからだけでなく、歴史がシカの生態を踏まえてできているところがおもしろい。そういう生態と歴史が符合しているところを入れていきたい。生きた歴史としてシカが維持している。5.1と5.2が対応していないように見える。生息環境だけでなく生息地利用についても言及してほしい。生息地利用については、80年代の奈良のシカに関する調査報告書を参照するとよい。(立澤)
  - 本資料の案は暫定版である。シカ目線など、もう少し膨らませたほうが良い。(村上)
- ・モニタリングの内容は具体的にどのようなになるのか。(立澤)

- 計画の具体的内容を埋めながら考えていく。(村上)
- ・8.(4)①の「生息環境の改善」は、8.(4)と表現が同じであるため、別の表現のほうが良い。  
(高柳)
  - ・8.(4)②でシバにこだわらず、幅広い餌を示す表現でよいのではないか。(高柳)  
→A地区における保護をイメージし、シバを記載した。(村上)
  - ・インバウンドの方に保護計画の考え方を理解してもらいたい。世界に向けて、町の中でシカと  
触れ合える場所はここだけだといったことも入れてほしい。(朝廣)
  - ・保護計画の概要版を作る必要がある。その際に、外国語版も必要ではないか。(鳥居)  
→来年度に概要版を作成するので、外国語版についても検討する。(村上)  
→国によって価値観や考え方がことなるので、それを踏まえた表現にできればよいと思う。  
(朝廣)
  - ・保護計画では、科学的な調査と環境教育的なアプローチを取るということを入れてほしい。環  
境教育は生物多様性にも関わるので。(立澤)
  - ・江戸時代に奈良公園周辺に作られた鹿垣は、開発によってなくなってきている。風化はしてい  
るが、歴史と文化が感じ取れる。その重要性も入れることはできないか。(渡邊)  
→シカ目線で、保護のために作られたという点で入れてもよいと思う。(村上)

以上、委員の意見順不同